

國家保護ノ基ヲ立ント欲ス汝百官有司厚ク朕
カ意ヲ體シ普ク之ヲ全國ニ告諭セヨ

明治五年壬申十一月二十八日

○陽曆五年十一月二十八日
勅諭

○明治五年十一月二十八日
勅諭

徵兵告諭

我朝上古ノ制海内擧テ兵ヲサレハ十シ有
事ノ日天子之カ元帥トナリ丁壯兵役ニ堪ユ
ル者ヲ募リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸レ
ハ農タリエタリ又商賈タリ固ヨリ後世ノ雙刀
ヲ帶ヒ武士ト稱シ抗顔坐食シ甚シキニ至テハ
人ヲ殺シ官其罪ヲ問ハサル者ノ如キニ非ス抑
神武天皇瓊彥ヲ以テ葛城ノ國造トナセシヨ

リ爾後軍團ヲ設ケ衛士防人ノ制ヲ定メ神龜天
平ノ際ニ至リ六府二鎮ノ設ケ始テ備ル保元平
治以後朝綱頽弛兵權終ニ武門ノ手ニ墜テ國ハ
封建ノ勢ヲ爲シ人ハ兵農ノ別ヲ爲ス降テ後世
ニ至リ名分全ク泯没シ其弊勝テ言フ可カラズ
然ルニ太政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ歳ニ
及ヒ遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿
ヲ減シ刀劍ヲ脱スルヲ許シ四民漸ク自由ノ權
ヲ得セシメントス是レ上下ヲ平均シ人權ヲ齊
一ニスル道ニシテ則チ兵農ヲ合一ニスル基十

リ是ニ於テ士ハ從前ノ士ニ非ス民ハ從前ノ民
ニアラス均シク皇國一般ノ民ニシテ國ニ報
スルノ道モ固ヨリ其別ナカルヘシ凡ソ天地ノ
間一事一物トシテ稅アヲサルハ十シ以テ國用
ニ充ツ然ラハ則チ人タルモノ固ヨリ心カヲ盡
シ國ニ報セサルヘカラス西人之ヲ稱シテ血稅
ト云フ其生血ヲ以テ國ニ報スルノ謂ナリ且ツ
國家ニ災害アレハ人々其災害ノ一分ヲ受サル
ヲ得ス是故ニ人々心カヲ盡シ國家ノ災害ヲ防
クハ則チ自己ノ災害ヲ防クノ基タルヲ知ルヘ

抄
卷
四
院

區
卷
四
院

シ苟モ國アレハ則チ兵備アリ兵備アレハ則チ
人々其役ニ就カサルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レ
ハ民兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作
意ノ法ニ非ス然而シテ其制ノ如キハ古今ヲ斟
酌シ時ト宜ヲ制セサルヘカラス西洋諸國數百
年來研究實踐以テ兵制ヲ定メ故ヲ以テ其法極
メテ精密ナリ然レトモ改體地理ノ異ナル悉ク
之ヲ用フ可カラス故ニ今其長スル所ヲ取り古
昔ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒
二十歳ニ至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急

ノ用ニ備フヘシ郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉
シ徵兵令ニ依リ民庶ヲ説諭シ國家保護ノ大本
ヲ知ラシムヘキモノ也

明治五年壬申十一月二十八日